

まえがき

技術室長 吉田義則

はじめに、今回の発刊でようやく 10 号目となり、沢山の投稿者もあって圧巻になりました。投稿者の皆様と編集にあられた方々の労に深く感謝いたします。

今年度は、団塊世代の 9 名が定年を迎えられます。

定年予定者：浅田照行、市川信夫、近藤和男、志田正雄、清水博樹、高山鐵朗、中尾節郎
藤木繁男、藤田安良（敬称略）

これらの方は長い年月の観測、実験、計測およびデータ整理など多岐にわたり技術支援をされてきました。中には目に見えない苦労をされてきた部分も多いことと思います。長年の労力に敬意をはらいつつ、本当に長い間ご苦労様でした。

再雇用者を希望される方は 8 名で元の勤務地に止まる人や異なる職場へと異動する人などもあります。また、残念ながらお一人の方は再雇用を希望されませんでした。

今回は、技術室の約半分に近い数の人が退職されることになりまさに危機的状況です。これから数年間は大変であると思います。技術室においても、これまで諸先輩が築き上げてこられた技術や功績を大切にしながら、将来に向かってさらに技術力を向上させるべく切磋琢磨し、一人ひとりが努力を積み重ねていかなければならないと思います。ただ、がむしゃらではいけないが、自己管理もしつつ頑張っていかなければなりません。さいわい退職者の中で 8 名の方が再雇用を希望されています。今後、技術伝承しなければならない仕事を若手技術職員にご指導のほどよろしくお願い致します。

今年度は、桜島火山観測所、穂高砂防観測所、白浜海象観測所の選考採用が認められ現地採用ということで 3 名の新規採用が出来たことは本当に良かったです。新規採用された技術職員の方は、先輩がいる間に、出来るだけ多くの技術の習得を目指して欲しいです。また、隔地観測所の場合、地元住民とのコミュニケーションも大切なことです。よろしくお願い致します。

平成 21 年 4 月からは現在の 4 班 8 掛が 4 技術グループ制という組織に変わる予定です。若手技術者と再雇用の熟練技術者と力を合わせてこれまでと同様に技術支援を行っていきます。

最後になりますが、皆様からの支援にお応えできるように、技術室としてもさらなる向上を目指して頑張ります。今後とも所長をはじめとする先生の方々、事務部の方々にご理解と一層のご支援をお願い致します。